

電気料金審査専門小委員会における指摘事項について

資料4

番号	委員等からの宿題内容	指摘の出された委員会	委員名	
<b>経営効率化</b>				
1	資料6スライド5について、不稼働影響額を、関電は4000億円と見積もっており、東電は3200億円と見積もっているが、東電は吸収しているのに対して、関電は東電より原発依存していて大変なので値上げをしたいと言っている。委員には、影響額に対してどれだけ努力をしているかを見ていただきたい。関電の効率化は130億円だけかと感じる。 27年度の効率化計画を出して欲しいと指摘をし、今回資料が出てきたが、どれを見ても努力目標ばかりである。なぜ明確な数値が出てこないのか。数値をきちんと出していただきたい。 来年度の効率化計画を出す時期について、値上げ認可までに出すと言っているが、あまりにも遅い。申請を行っているのだから、査定案が出るまでに小委員会に示し、私たちに公表すること。	第22回	河野オブ、辰巳委員、飯田オブ	今回回答
2	資産売却は財務体質改善の価値があるが、どういう活用をしているか、より効率的な運用か、という視点が大事。有価証券については、資産運用と事業運営の側面があり、事業運営の方は、子会社・関係会社の株式であるが、ガバナンスが利く運用をしているか考える必要があるとともに、利益剰余金もあり、本業の事業効率にどれだけ寄与しているか、見なければならぬ。 保有財産が有用であることを説明してもらう必要がある。最もいけないことは、子会社の株を保有して配当があるから、発注価格を高くして、その分は電気料金で回収し、さらに配当で得た利益が役員報酬等に回るケース。そういう疑念のないように説明責任を果たすべき。説明できなければ、いっそ株を売却してしまえば良い。	第22回	梶川委員、松村委員	今回回答
<b>前提計画</b>				
3	石炭火力の発電量が減っていることについて、もう少し見る必要がある。定検が27年度に偏っているのは、関電の努力が及ばないことなのか、少し先に延ばせるものはないのか。もう少し情報を頂戴したい。 石炭と揚水の議論はどこに行ってしまったのかと思っていた。そもそも電変の対象として認められるか、対象だとして、更なる工夫の余地がないか、確認する必要がある。 石炭の定検はバツ切りすることも原理的にはあり得るが、需給が厳しかったため、対策として繰延べできたことは事実で、因果関係がないとは言いきれない気がする。そうすると詳細を見ないといけぬ。批判もあるが、一定程度は受け入れざるを得ないことになるかもしれない。	第22回	秋池委員、安念委員長、松村委員	今回回答
4	揚水が増えているのはいまいち理解できていない。元々、ベース電源のオフピークで揚げて落とすもので、足下ではコストが高くなっているはず。メリット・オーダーにどうなのか。マーケットで買ってくるという代替手段もある。もう少し詳しく説明いただきたい 揚水については、自社管内ですべて賄おうとすると使わざるを得ないとなるが、外から買ってくる方が安いなら活用すべき。査定案を出した上で、連系線がつまっっていて無理とか、他社依存がここまでいくと安定供給上問題とか、反論があれば、その分を修正する必要がある。他社から買ってこれられない理由があれば具体的に説明して欲しい。自社で全て賄わないと不安、という抽象的な理由では納得出来ないの、丁寧に説明いただきたい。	第22回	山内委員、松村委員	今回回答
<b>費用の配賦・レートメイク</b>				
5	消費者は基本的にウェブで相談することになるのだと思うが、契約口数に対して、省エネコンサルはどの程度普及しているのか。実際に、具体的なコンサルを受けた人の比率、問い合わせの比率を教えてください。	第22回	辰巳委員	今回回答